opusdei.org

## 福者アルバロの生涯 (1)

5月12日の福者アルバロ・デル・ポルティーリョの記念日を迎えるにあたり、福者の伝記から子ども時代のエピソードを紹介します。

2016/04/20

『オプス・デイ属人区長・アルバロ・デル・ポルティーリョ司教の思い出』、子ども時代(本書第二章より)\*

1977年7月のある日、昼食を始めた ドン・アルバロは、食卓に一緒にいた 人たちとの会話に気を取られ、いつ もの野菜に加えて、気づかずにジャ ガイモ料理を自分の皿に盛ってしま いました。気づいたドン・アルバロ は、ジャガイモ料理を、フロレンシ オ・サンチェス神父とホアキン・ア ロンソ神父に分け与えました。その ことが、幼かった頃の母の言葉を思 い出させました。午後の授業に間に 合うために、アルバロは昼食を急い でとらなければなりませんでした。 ある日、家を出る時に、母のための デザートをつまみ食いすると、母は こう言いました。

「あなたの子どもたちも、あなたの 口から食べ物をとってしまいます よ。」

当時は他愛なく思い聞き流していた 母の言葉を思い出したのです。

アルバロは1914年3月11日に産声を 上げました。6日後に、アルカラ通 りの一角、ちょうどグラン・ビア通 りが始まる地点にあるサン・ホセ教 会で洗礼を受けました。代父はホル ヘ・ディエス・デ・ソリャーノ叔 父、代母はマリア・デル・カルメ ン・デル・ポルティーリョ・パルド 叔母でした。赤ちゃんには、アルバ ロ・ホセ・マリア・エウロヒオの名 前が付けられました(この最後の名 前は当時のスペインで古くから祝わ れていたその日の聖人です)。1916 年12月28日には、コンセプション教 会において、シグエンサ司教エウス タキオ・ニエト・イ・マルティン師 より堅信の秘跡を受けました。当時 のスペインでは、幼い子どもに早く この秘跡を授ける習慣があったので す。

1989年3月11日、75歳の誕生日にドン・アルバロはローマにある平和の聖マリア属人区長教会でミサを捧げ、

ポルティーリョ家で長年働いた女性 メルセデス・サンタマリアは、社会 アンタマリアのするとので表 のな性格で際立っないがられていいられていいが がます。アウスには幼いでではかいででです。 でではながいたのでででででいた。 はたくないたのです。 はないたのない答えを返し、 もれると、 にこのない答えをしている。 はいると、 にこのない答えをいると、 にこのない答えをいると、 にこのない答えをいる。

早い時期に少々重い病気が現れます。2歳か3歳の時に、リューマチを発症しました。そこで夕食の後、兄と姉たちには卵入りのミルクが入った大きなコップが与えられたのに、アルバロは薬を飲まねばならな、アルバロは薬を飲まねばならに、のです。それで恨めしそうに、のでするんたちはいいな。卵入りをもらって。僕には苦いた。それはサん」とこぼしていました。それはサ

ドン・アルバロは、幼い弟や妹の言葉 遣いを直そうとしたことを思い出す 時、よく笑っていました。妹ピラー ルか弟ペペが、幼児にはよくある間 違いを犯した時、それを直してやる のでしたが、実は自分も堂々と間 違ったことを教えていた、と。

子どもにはよくあるいたずらや悪ふざけもしていました。時には父親が

彼に罰を与えなければならないこともありました。しかしアルバロモンがおと、父ラロました。父が後ろな仕置きをしようと、アルで彼をもうと、ありました。となけて逃げるということもありました。

父ラモンは毎日曜日、兄弟たちと一 緒に幼いアルバロをミサに連れて行 きました。コンデ・デ・アランダの 家から目と鼻の先にある聖マヌエル と聖ベネディクト教会に通っていま した。ミサが終わると、アルカラ通 りを横切ってレティロ公園を散歩し ました。公園の中で、ラモンは子ど もたちにフライド・ポテトとサイ ダーを買ってやることもありまし た。妹のピラールによれば、アルバ 口は落ち着いた子どもで、朗らかで 単純素朴、どちらかと言えば太って いて、その仕草は愛らしくにこやか

\* 『オプス・デイ属人区長・アルバロ・デル・ポルティーリョ司教の思い出』。サルバドール・ベルナル著、中島貴幸監修。2014年6月25日発行。A5サイズ、389頁。

非売品ですが、協力金として一冊 1,800円にてお渡ししています。ご関 心のある方は、上記「連絡」よりE メールにてお問い合わせください。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/fukusha-alvaro-1/(2025/11/29)